



2026 年 9 月 17 日

各 位

会 社 名 株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド
代表者名 代表取締役社長 伴 将行
(コード番号 4436 東証グロース)
問合せ先 ファイナンス&ストラテジー本部 執行役員 前田 陽介
(TEL : 03-6274-6493)

「金融情報を、判断の力に。」

ミンカブ、「日本発の金融情報プラットフォーム」へ
～ NTT データ・SBI との連携を起点とする中長期成長ビジョン ～

株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド（以下「当社」）は、本日公表した株式会社 NTT データ（本社：東京都江東区、代表取締役社長：鈴木 正範、以下「NTT データ」）及び SBI ホールディングス株式会社（本社：東京都港区、代表取締役会長兼社長：北尾 吉孝、以下「SBI」）との業務提携並びに新たな枠組みを起点として、「日本発の金融情報プラットフォーム」への進化を目指します。

当社が考える金融情報プラットフォームとは、金融情報を提供するだけでなく、金融データ・コンテンツを、金融機関の業務や個人の意思決定に活用できる価値へ転換し、金融機関からその先の個人までをつなぐ存在です。

その実現に向けて当社は、これまで培ってきた金融情報、証券・投資領域における専門知見、AI・DX ソリューション及び個人投資家との接点に、NTT データの金融システムへの実装・運用力と、SBI グループの知見及び顧客基盤を組み合わせ、国内外で新たなサービスを創出・展開してまいります。

1. 「金融情報を、判断の力に。」、個人投資家をエンパワー

世界の金融市場では、金融データ、ニュース、分析、取引支援等を金融機関や市場参加者の業務と結びつけ、幅広いサービスとして展開する企業が、金融市場の発展とともにグローバルな事業規模へ成長してきました。

一方、テクノロジーの進展や個人の資産形成の広がり、金融サービスのデジタル化を背景に、金融情報に求められる役割は変化しています。情報を提供するだけでなく、膨大な情報の中から変化や機会を捉え、金融機関の業務や一人ひとりの判断に活かせるサービスに転換することが、これまで以上に重要になっています。

当社のソリューション事業は、金融機関を通じて、その先の個人へ金融情報やサービスを届ける B2B2C を主軸として成長し、金融機関の業務を支える B2B に領域を広げてきました。また、「Kabutan (株探)」をはじめとする B2C の金融情報サービスを通じて、個人投資家との直接的な接点を有しています。

これらのサービスを通じて当社が一貫して大切にしてきたのは、金融情報を単に提供するのではなく、一人ひとりが市場の変化や投資機会を自ら発見し、自ら判断できる力を高める、「個人投資家をエンパワーする」という視点です。

当社はこの金融機関と個人の双方との接点を活かし、B2C で培った投資家視点と、金融機関の実務やサービスニーズを結び付け、金融データとテクノロジーを活用したサービスとして届けます。さらにB2B・B2B2C・B2Cの各領域で得られた知見を再びサービス開発へ還流させます。この循環が、当社の目指す金融情報プラットフォームとしての成長モデルです。

2. NTT データ・SBI との連携により、構想を社会実装へ

この成長モデルをより大きな規模で展開するためには、データ・コンテンツや個人投資家との接点に加え、それを金融サービスとして実装するシステム基盤と安定した運用、金融実務に根差した実証環境、幅広い顧客への展開力が必要です。

今回の連携では、当社の金融データ・コンテンツ・AI・DX ソリューション・個人投資家との接点に、NTT データのシステム・AI 基盤への実装・運用力と、SBI グループの金融実務知見、顧客視点及び顧客基盤を組み合わせます。

三社は金融機関の営業、リサーチ、マーケティング等を支援するサービスをはじめ、既存ソリューションの展開や、そこから派生する新たなサービスの企画・開発を進めます。SBI グループ各社等における実証を通じてサービスを高度化し、NTT データ及び SBI グループのネットワークを活用して、幅広い金融機関へ展開してまいります。

これにより、当社単独では実現に時間を要していた構想を具体的なサービスへ迅速に転換し、企画・開発から実証、導入、展開までを一貫して推進することが可能になります。あわせて金融機関との接点を広げ、その先にいる個人へ届ける循環を加速します。

今回の連携は、当社が培ってきた個人投資家の視点を金融機関のサービスに活かし、個人投資家をエンパワーするという考えを、より多くの金融機関とともに、より大きな規模で実現するものです。

3. 日本市場で培ったモデルを世界へ

当社は既に、「Kabutan（株探）」をはじめとする金融情報サービスのグローバル展開に着手しています。日本市場で培ってきた金融情報、投資家の関心を捉えるコンテンツ力及び個人投資家との接点は、海外市場における事業展開の基盤となる資産です。

個人投資家向け金融情報サービスのグローバル展開を進めるとともに、NTT データ・SBI との連携を通じて金融機関向けソリューションの実装力と展開力を高めます。これらを相互に連動させ、日本で培った金融機関と個人を繋ぐモデルを、アジアをはじめとする海外市場へ成長領域を広げていきます。

4. 売上高 100 億円・営業利益 30 億円の先へ

当面の経営目標として売上高 100 億円、営業利益 30 億円を見据えています。これは、このビジョンを実現する過程における最初の経営マイルストーンです。

その達成に向け、NTT データ及び SBI との共同事業計画とロードマップを具体化し、共同サービスの事業化、顧客への導入及び収益化を順次進めます。あわせて、既に着手しているグローバル展開についても、対象地域、提供サービス及びパートナーシップを拡大していきます。

当社は、これらの進捗と成果を継続的に公表し、経営目標の達成とその先にある「日本発の金融情報プラットフォーム」への進化を示してまいります。

代表取締役社長 伴 将行コメント

「金融情報は、単なるデータではなく、人と企業の判断を支え、資金と成長機会を結び付ける社会にとって重要な基盤です。当社が創業以来大切にしてきたのは、金融情報によって個人投資家をエンパワーすることです。情報が溢れる時代だからこそ、一人ひとりが市場の変化や可能性を捉え、自らの判断できる力を持つことが、これまで以上に重要になっています。

当社には、日本の金融市場に根差したデータと専門知見、AI・DXソリューション、そして個人投資家との接点があります。NTT データ、SBI との連携により、これらを具体的なサービスとして実装し、金融機関とその先にいる個人へ届ける力を高めます。さらに、既に始めているグローバル展開も加速させ、日本で培った金融機関と個人を繋ぐモデルを世界へ展開していきます。

売上高 100 億円、営業利益 30 億円は、まず実現すべき経営目標ですが、そこを当社の完成形とは考えていません。

今回の取組を新たな成長の起点とし、「金融情報を判断の力に。」というコンセプトのもと、新たな「金融情報価値創造プラットフォーム」への進化に挑戦してまいります。」

以上